

# 文芸

## 俳句

踏まれたる年の豆掃く朝かな  
伊藤 敬子

鬼打つも落花生なり総の国  
今関満喜子

遠ざかる鬼の足音春立てり  
魚地 照子

母の手をふと見てみるとあかぎれて  
鹿子木小夜子

老生の小さな幸せ干蒲団  
川島 通則

山の端に冬満月の白さかな  
向後 寛

春の雪夢まぼろしの魅了かな  
越川せつ子

庭に咲く土龍の山や黒々と  
小松 藤男

盃に初鶯の音を浮べ  
佐瀬 輝夫

先生に土筆摘んでは競ひ寄る  
椎名万里子

春浅き眠れる沼に鳥騒ぐ  
市東富美江

生き生きと敷の中なる路のとう  
鈴木とし子

陽光に生なる証芽吹きくる  
土屋美枝子

受験生振り返らずに坂歩む  
土屋 義昭

猫柳ゆれてドレミアソラシかな  
戸村 静華

コンセント一つ増して雛飾る  
内藤 くに

植木屋の梯子そのまま冬の雨  
早川 勇

城址の光眩しき梅二月  
藤田 雅夫

## 短歌

振り返るまた振り返る七十年  
長生きするも重荷となりぬ  
越川 義則

やわらかく少なくなりし髪を梳く  
硬くなりゆく心思ひつつ  
高梨 キヨ

.....

もらひたる鉛筆けずりは愛らしき  
桜色なり頬ばりたしよ  
青木 秀子

この日頃笑みと迷ひの顔を見す  
女孫は受験のただ中にあり  
鈴木まさ子

末枯れしは焼かれて黒き休耕田  
葦牙生ゆる春を待ちをり  
押尾 輝子

冬晴れの庭に雀ら眺めれば  
ミサイル発射のニュースが聞こゆ  
椎名美枝子

おだやかで在りし叔母上送る日を  
細き雨降る春まだ浅く  
芹川 初子

如月の青澄む天に逝きませり  
九十八歳女医先生は  
西山満里子

手遊びのゲームの動きに追いつけず  
笑い声たつふれあいサロン  
加瀬 弘子

妹が土産にくれし「良寛の  
名歌百選」味はひ深き  
田崎 尚美

雀らがりんご啄むを鴨は  
羽音に威嚇し追ひ払ひたり  
水須 俊

雨混じりの春一番が打つ音を  
風邪に臥したる床に聞きをり  
浅野 榮子

朝の空碧に澄みみて見詰めたる  
吾の心にやる気満ち来ぬ  
斉藤つね子

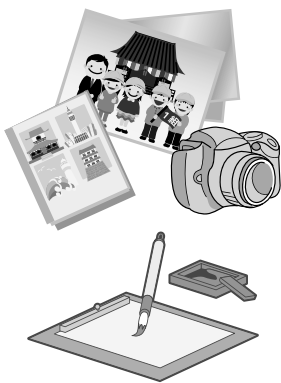
## 作品展

◎町民会館ミニギャラリー

4月 横芝写真クラブ

◎文化会館口ビー展

4月 華舟会



こうほう  
博物館 97

## 春盛りのお花畑

4月になると、陽春真っ盛りとなり心もウキウキしてくる。そうした穏やかな中で、木戸台の北斜面の道端には、無数の白い花の花畑がこの時期だけ姿を現す。この白い花は、演歌にも唄われた二輪草である。

二輪草はキンポウゲ科の多年草で、背丈10cm程の先に白い花が二つ咲くことからこう名付けられた。主に寒い地方や山の林床に生え、貴重な植物であることから千葉県では要保護植物に指定されている。また、葉がトリカブトに似ているため注意が必要である。

そのような花が、温暖な当町になせ生えているのだろうか。

二輪草は高い山地に生えているので氷河時代の生き残りかもしれない。



▲木戸台の二輪草

残りかもしれない。そのため、木戸台の北側斜面の寒風が吹きすさぶようなどころに、好んで生えているのかもしれない。道端に一面に咲く二輪草は見事であるが、そっと愛でていただければと思う。

(社会文化課 道澤 明)